

◆ポランの広場の活動

(1) 不登校・ひきこもりの相談（面談、電話）

・相談日：週3回（火・金・土）10時～16時

(2) 居場所（フリースペース）

・週3回：（火・金・土）12時～16時

・行事 ①「若者の語り場」②「パソコンを習おう！」
③「絵本の読み聞かせ」

④若者の行事「焼き肉を食べて語り合おう！」



2021年
11月6日
松尾神社
らん公園向
い

若者5人と小学生の男の子1人、手伝いの大人4人
計10人が集まりバーベキューを楽しんだ

(3) 「学びの場」（不登校の子を対象）

土曜日 10:30～12:00 講師：BBSの学生

(4) 父母会定例会（さくらんぼの会、茶話会）

月2回（アイーナ）盛岡地区父母会と連携

(5) 会報「ポランの広場通信」 毎月1回発行

(6) 講演会（リモート）2021年5月16日（日）講師：山科満さん 中央大学文学部教授 精神科医
演題「不登校・ひきこもりの人への支援～感覚の多様性を踏まえて」

◆居場所支援～生きづらさを抱える若者を社会につなぐ

1) 居場所は「社会的自立への中間施設」という位置づけでスタート

2) 利用者と社会参加

a. 通院中、社会参加が困難な状態

b. 通院しながら就労支援サービスを利用（就労継続支援、就労移行支援、障害者雇用による就労）

c. 社会参加なし

3) 若者たちの横顔

* 不登校を経験、九州で4年間の会社勤務など波瀾に富んだ生活を送る

* 親との葛藤を抱えながら障害者枠での雇用が5年目に入った

* 職を変えつつも絵画制作など芸術活動に勤しんでいる

* 日常生活や家族を題材に数多くの短歌、川柳をつくっている（後掲の「TSさんの作品」）

不登校・ひきこもり 父母会のあゆみ

・1987年「宮古地区父母会」結成

不登校の子をもつ親が県内で最初の親の会活動をはじめ

・1991年地区父母会の連絡組織発足

後の「岩手県不登校を考える父母会」役割は地区父母会をつなぐ事務局と講演会等の企画・開催。この頃は不登校とひきこもり問題が混在していた

・2001年4月事務所兼居場所「ポランの広場」開設

目的は若者たちの居場所をつくること。久慈地区にはすでに居場所「こどもセンター」ができていた（1994年）

・2002年NPO法人化

社員は11地区父母会の会員であった

・2014年認定NPO法人となる

*バラなど花の栽培が趣味、よく街の園芸店を回っている

彼らの経験や趣味は必ずしも収入に直接つながっているわけではない。収入に結びつかないことで悩んでいる者もいる。自分の好きなこと得意なものに熱中しながらも自分の生き方を模索しているようにみえる。個性豊かな彼らから学ぶことは多い。

4) 居場所のあり方

- ・居場所はホッと安心できる場所であり、また人との出会いとつながりができる空間である。「ポランでの生活は、親が亡くなり自立せざるを得なかったときに社会で人間関係を築く土台となった」(「卒業」した利用者の言葉)
- ・就職や進学ができたとしてもそれはゴールではない。長い人生のうちにはいい時もあれば悪い時もある。心身の不調や人間関係で辛くなったときに居場所とのつながりで少しでも元気を取り戻して欲しいと思う。

◆活動の課題

①「親なきあと」への対応

- ・親が子どもの世話をできなくなったときである(要支援・要介護状態、親の死など)
- ・2020年度から「親なきあと」の講演会と勉強会を行っている
- ・難しい事例がある。両親は高齢者、生活困窮、子どもはひきこもり、両親が支援を拒否→多職種チームによる「アウトリーチ事業」に期待したい

②スタッフの高齢化

- ・あらたな人材の養成と世代交代が課題

③財政の問題

- ・各地区父母会会員の会費、居場所維持会員の会費、寄付、助成金で運営を賄っている

<TSさんの作品から> (日報文芸欄に掲載)

- ◎心病みながらも孫に親しまれ母は死にたりばあばと呼ばれ
- ◎暇だから載るんだろうと馬鹿にする父よ紙面の我が歌を見よ
- ◎大丈夫死なないからと力なく微笑む友よ俺も死なない
- ◎わがために飯を多目によそいたるデイケア食事担当の君
- 七十年本気で生きた父の顔
- 人生は生きてみないと分からない

認定NPO法人 岩手県青少年自立支援センター「ポランの広場」

〒020-0873 岩手県盛岡市松尾町 19-8

Tel/ Fax 019-605-8632

URL <http://www.porannohiroba.net/>

E-mail info@porannohiroba.net

○開所日：火・金・土曜日午前10時～午後4時

